| 科目名称 | 成人看護学実習Ⅰ（慢性期・終末期看護） | 学年学期 | 単位数 | 時間数 |
|---|---|---|---|---|
| | | 第３学年　後期 | 2 | 90 |
| 担当教員 | 小路　陽子、上原　茂相 | 授業に関わる<br>実務経験 | ■　有　（　看護師　）<br>□　無 | |

【1】 授業概要

慢性期・終末期の対象の看護について学習する。慢性期・終末期は、慢性あるいは予後不良の疾患をもち、終生病気と共生し自己コントロールが必要な対象への看護を学ぶ。

【2】 学習目標

1.慢性的な機能障害をもつ対象を身体的・精神的・社会的側面からとらえ、生活への影響までとらえることができる。
2.対象の疾患について病態生理、治療を理解し、対象に必要な症状マネジメントが理解できる。
3.対象に必要な援助を自立・自己管理の視点から対象とともに考え、実施することができる。
4.対象に実践した看護計画が評価できる。
5.保健・医療・福祉チームメンバーとの関わりを通して、社会資源の活用方法が理解できる。
6.実習を通し自己の看護観を深め、自己の課題を考えることができる。

【3】 第１看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性

■　1. 人間を理解し、倫理的な態度で看護を実践する力
■　2. あらゆる対象に応じた看護を実践する力
■　3. 地域の特性を看護に生かす力
■　4. 保健・医療・福祉システムにおける連携・協働できる力
■　5. 主体的に学び続ける力

【4】 授業計画

※在院日数の短縮により、3週間同じ患者を受け持ち看護過程の展開をできることは少ない。受け持ち期間、受け持ち患者の状態に応じて授業計画は変更される。担当教員と相談しながら実習を行う。

| | 内容 | 主な授業形態 |
|---|---|---|
| 実習1週目 | ・　病棟オリエンテーションから、病棟の構造・設備を踏まえた患者の入院環境と患者像を理解する。<br>・　病気と共に生きる慢性期もしくは終末期にある対象を受け持ち、対象の身体的・精神的苦痛、家族の思いを理解する。また、症状をコントロールするための生活上の制限を理解し対象の心理に共感する。ゴードンの11パターンに沿って情報を分析する。どのような健康障害が生じているか考え、日常生活への影響をアセスメントする。<br>・　病棟でのカンファレンス（ケース、退院支援、NST　など）へ参加し、他職種との連携（チームアプローチ）について学ぶ。 | 臨地実習 |
| 実習2週目 | ・　受け持ち患者の全体像をもとに、援助が必要な看護問題を考え、看護目標・看護計画を立案する。日々の実習の中で看護計画の実施・評価・修正を行う。<br>・　学生カンファレンスで関連図を踏まえて看護計画について話し合い、よりよい看護実践につなげる。 | |
| 実習3週目 | ・　受け持ち患者の看護実践や看護場面の見学から、疾患の受容、状態に応じた日常生活援助、セルフケアを促進させ、コンプライアンスを高める援助方法の実際、退院後の生活に対する支援の実際を経験し、慢性期における看護を学ぶ。また、終末期にも共通する疼痛や症状のコントロール、状態に応じた安楽な援助方法の実際を経験する。 | |

【5】 評価方法

成人看護学実習Ⅰの到達度基準に従い、実習での取り組み、実習記録、実習前から実習後までの学習状況から、学生・教員（臨地実習指導者所見含む）で評価を行い、60 点以上を合格とする。

【6】 教科書

渡邊トシ子：ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践　看護アセスメント　ヌーヴェルヒロカワ
T.ヘザー・ハードマン　NANDA-Ⅰ看護診断　定義と分類 2024-2026（第 13 版）　医学書院

【7】 参考書

３年次４月に成人看護学実習オリエンテーションで配布した資料、
成人看護学実習Ⅰ直前オリエンテーションで配布した資料　　その他は随時紹介する

【8】 受講生へのメッセージ

臨地で患者さんを受け持ち、患者さんが慢性的な疾患を受容し、自立・自己管理していく過程で必要な看護は何かを考え、実践する実習です。既習の看護過程を展開し、学びを深めましょう。